

K A M E Y A M A

ri
V
M
ale

2

2

September 19
December 19
2019



P R E
EXHIBITION

A R C H I V E

dai
S
akurai

Yoshi
K
uracka



亀山トリエンナーレ
2020
企画



目次

2	挨拶	亀山トリエンナーレ2020 実行委員会	亀山トリエンナーレ監修 井上隆邦
4		亀山トリエンナーレ2020 プレ企画展示	
		「どこからともなく」 櫻井大吾	「my space」 倉岡としえ
12	EVENT パフォーマンス		
14	EVENT 亀山市協働事業		
16	広告		
18	取材		
20	あとがき	亀山トリエンナーレ事務局	



亀山トリエンナーレ2020に向けて2019年はプレ企画を開催いたしました。

4月から8月まで亀山トリエンナーレ2020の出展作家を選出するコンペティションを実施。

厳正な審査を経て、海外からの作家も含め、92組がノミネートされました。

10月19日に現地説明会を開催し、出展作家たちが各自の展示場所を決定しました。

プレ企画は9月15日から12月15日までの3ヶ月、亀山東町商店街の2ヶ所に二人の作家の作品を展示。

展示作家2人によるアーティストトークに始まり、期間中のイベントも充実していました。

亀山の特産品である亀山茶のティーバッグデザインの募集を経て、

斬新なパッケージができあがり来場者に配布、好評を博しました。

また、亀山茶を使用した新メニューの考案を市内の若いシェフやパティシエに依頼。

料理やスイーツは期間中に開催したCAFÉ@亀山で提供され、大好評でした。

青木倉庫を舞台に、映像と音を駆使したパフォーマンスとポエトリリーディング(+音楽)も開催。

来場者の方に、非日常な体験を味わっていただきました。

ご来場いただきました皆さま、ご協力いただきました皆さま、

資金面で多大な助成をいただきました岡田文化財団(公財)に心より感謝申し上げます。

貴重な体験を記した記録誌が多くの皆様に読んでいただけますように。

「新人作家の登竜門」と

「現代美術分野での国際交流」を

目指す亀山トリエンナーレ。

本年10月4日から開催される第3回展では

こうした視点を踏まえつつ

魅力的で斬新な作品の数々が披露されることを

期待しております。

dai Sakurai

「どこからともなく」

絵のない標識は、
原風景もしくは心象風景の意匠です。
交通標識が配置された空間からは
どこからともなくチャイムが流れてきます。
私は夕方チャイムがなると、
少し寂しいような気持ちになります。
日が沈み、移ろう時間に焦点を当て、
展示会場に表現しました。



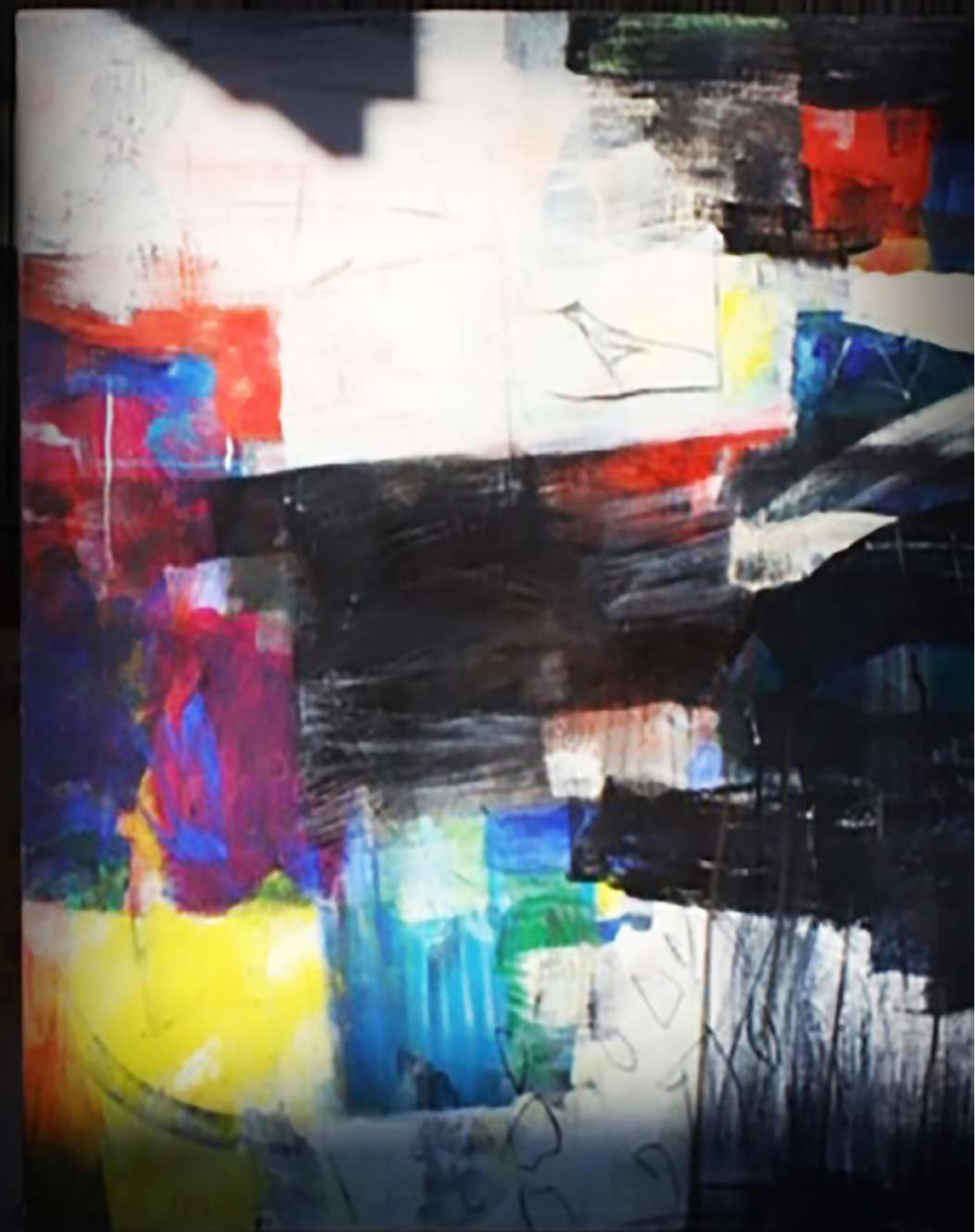
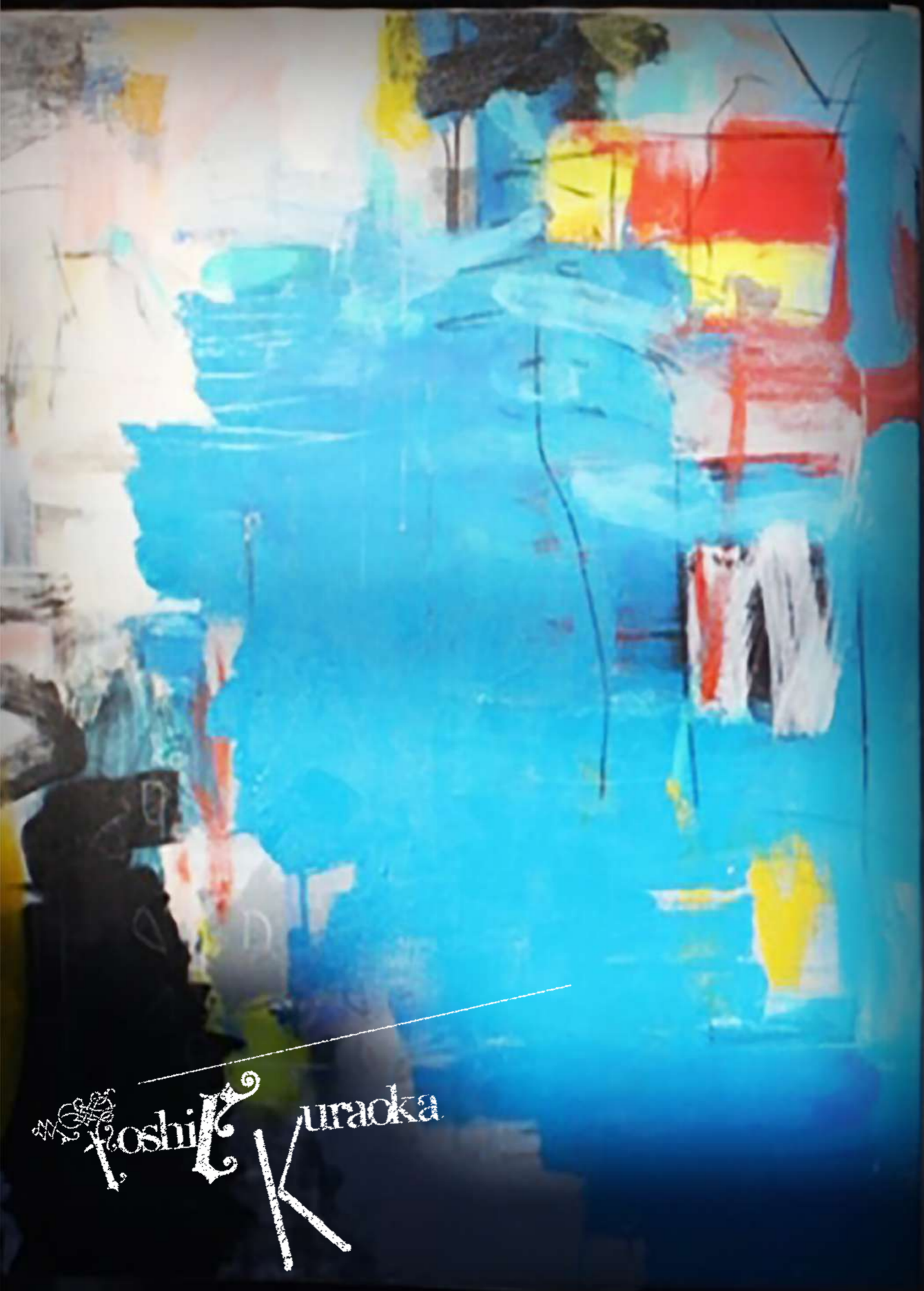
title

「my space」

風景や身のまわりの生活空間が、
遠い時間と繋がっているのを
感じることもある。
小さな画面の中にも
それが現れるのを待ちながら、
キャンバスに向かう。

Koshi Kuracka

化粧品のなかや



o c t o b e r
9 ○ 1 5 (sun)



アーティストトーク

ブレ企画展示作家の櫻井大吾さんと倉岡としえさんによる
アーティストトークを開催。
コーディネーターは大岡英介さん。
制作過程の映像と共にトークが展開されました。
地域における芸術祭についても意見交換しました。

今回の作品は様々な方々の協力の元、制作させていただきました。皆さんお忙しい中好意的に参加くださり、私が考えるよりも常に上をいく仕上がりで提示してくれました。滞りのないよう進行していくには、誠実さが重要だと感じました。日々の習慣や行動・決断が積み重なりそれが結果として、力になり作品になるのだと今回学ばせていただいたように思います。

櫻井大吾

キャンパスという平面の中に、日々生きて感じている気持ちを色と形で表現してきました。制作は私にとって、流されていく日常に抗い、自身を確かめる作業でもあります。今回はここ数年の創作を振り返る良い機会となりました。今秋は再び亀山の街がさまざまな作品で彩られます。日常と非日常が混在する場は人々の心を大いに揺り動かすものであると思われま

倉岡としえ

パフォー
マンス

EVENT



o c t o b e r
10 ○ 1 9 (sat)

第1回パフォーマンス

「追憶の子守唄」 MW ∞ WM

東京を中心に活動している MW ∞ WM によるパフォーマンス

「追憶の子守唄」の公演。

櫻井大吾さんのインスタレーションを背景に
「生」をテーマにした世界観が演出されました。

今回のブレ企画に参加して亀山の方々の芸術に対する情熱と優しさに触れることができました。人と人との縁が芸術の中で繋がり、日常を鮮やかに彩る。そんな素敵な1日をまた過ごせたら良いと思います。パフォーマンスでは青木倉庫の中に眠っていた品々を実際に使用しました。その場所に眠る思い出や記憶を感じて、また、新たな思い出としてみなさんの中に残っていけば嬉しいです。

MW ∞ WM 西川直樹



亀山トリエンナーレ2020

現地説明

ノミネート作家(一部海外作家を除き)が亀山市に参集。
市内を探索し展示場所を決定しました。
監修の井上隆邦さんよりアドバイスもありました。



第2回パフォーマンス

村田仁 ○ 大岡英介 「ku.-na-mo-to-ra-ka-ko-Do / 雪、宛先。」 11 ○ 2 3 (sat)

詩人の村田仁さんと音楽家の大岡英介さんによる
ポエトリリーディング+音。

倉庫に響く即興の言葉とアコースティックな音の重なりに来場者は魅了されました。



村田仁さんが即興で繰り返す詩のパフォーマンス。舞踏のように裸足で動き、次々と言葉が湧いてくる。私は楽器の個性を探り音で言葉を追いかける。完成された空間で、完成されずに未知のまま完結する言葉と音の波。その時間を共有できた人達でしか体験できない濃厚で価値ある作品になりました。

大岡英介

「ku.-na-mo-to-ra-ka-ko-Do / 雪、宛先。」は、櫻井さんの空間、大岡さんの演奏に届ける詩である。下校時のもどかしさと、時代の癖にする風を乗り越え、身体はあろうとした。言葉に引っ張られ、音に引っ張られ、影に引っ張られる声になった。

村田 仁

亀山市協働事業



商品開発し、試食会をおこないました。

亀山茶PR用

デザインの募集

市長を含む5名による審査会で、審査員がおのおのの思いを募らせ、厳正な審査の上、櫻井大吾さんの作品に決定しました。ティーバッグを商品化する際には、関係各所で何度も調整を繰り返し、余念なく話し合いが行われました。また、パナースタンドの制作にあたっては、スタンドのサイズや質感に合わせ、デザインの調整を繰り返し、そして、豊かな水を育む森林で長く守られてきた茶畑を撮影しました。亀山トリエンナレを通じて、新たな切り口で、亀山茶のPRに大きく貢献していただきました。

亀山茶を使った

新商品の開発

上品で濃厚な味わいと香りが特徴の亀山茶を「飲む」だけでなく「食べる」という新たな視点で、魅力を発見したいとの思いから、市内のパティシエやシェフの方に新商品を開発していただきました。亀山茶の魅力を多くの人により身近に感じてもらうことができたのではないかと思います。イベントへ2度、3度と足を運ばれた方もみえました。一部の商品は、今後も市内の飲食店で食べることが可能です。亀山茶や亀山の食がもたらす魅力を市内外へ発信し、今後さらなる盛り上がりを目指します。

亀山市役所
産業建設部
産業振興課○農業G

石川 真子

最優秀賞を受賞した
パッケージデザイン。

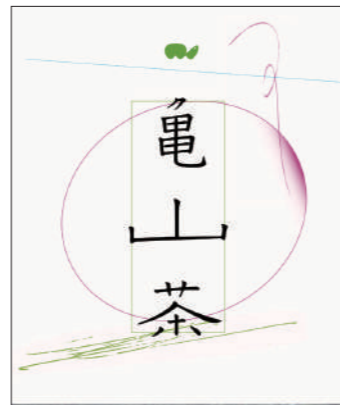




亀山トリエンナーレ2020
エントリーシート



亀山市協働事業
亀山茶パナー



亀山市協働事業
亀山茶パッケージ



撮影風景。亀山在住のブラジルの子どもたちにモデルを依頼。



広報かめやま
2019年9月1日号

「ku-na-mo-to-ra-ka-ko-Do / 雪、宛先。」
DM

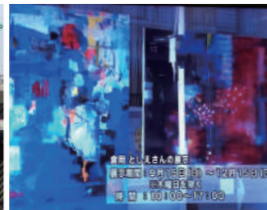


「追憶の子守唄」
DM



亀山トリエンナーレ2020プレ企画
旗





亀山市行政情報番組「マイタウンかめやま」
9・20~26
2019
朝9時から22時
繰り返し放送



FM三重「EVENING COASTER エリアレポート」
1・15
2019
17時40分



FM三重「Micレポート」
10・4
2019
14時30分

新聞



4・7
2019
中日新聞



4・11
2019
中日新聞

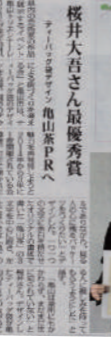
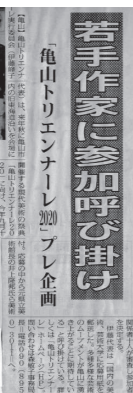


6・28
2019
中日新聞

8・10
2019
毎日新聞



4・14
2019
伊勢新聞



9・6
2019
毎日新聞



8・14
2019
中日新聞



8・3
2019
伊勢新聞



7・2
2019
伊勢新聞



9・16
2019
中日新聞



10・22
2019
中日新聞



10・20
2019
伊勢新聞



9・16
2019
伊勢新聞



9・16
2019
毎日新聞



9・16
2019
朝日新聞



9・18
2019
読売新聞



10・1
2019
広報かめやま



亀山トリエンナーレ 2020
ブレ企画
記録誌

発行日
2020年4月25日

主 催：亀山トリエンナーレ2020実行委員会・亀山市（亀山市協働事業）
事業協力：亀山市東町商店街振興組合・亀山市観光協会・亀山商工会議所・亀山市地域社会振興会
協 働：亀山市文化スポーツ課文化共生G・産業振興課農業G・商工業地域交通G
協力助成：（公財）岡田文化財団・井上製作所・伊達製茶・化粧品のみなかや・青木節子・野間秀一・岡田桂織
料理協力：あんらく・草河友博・月の庭・トラットリア イルテルノ・natural sweets あいのや
発行責任者：伊藤峰子・森敏子
編 集：森敏子・櫻井大吾・松岡歩未

長年、亀山トリエンナーレの企画運営に携わっている私にとって、

今回のブレ企画で亀山在住のアーティストが作品を展示してくださったことは本当に嬉しい出来事でした。何の変哲もない古い倉庫に価値を見出し、櫻井大吾さんの作品が展示されました。

なかや化粧品店に展示された倉岡としえさんは亀山トリエンナーレの創立メンバーです。

彼女の色鮮やかな平面作品は商店街を華やかに彩りました。

そして、このブレ企画が実行委員のみならず、

大勢の街の人たちの協力を得られたこと、

亀山市との協働事業として開催できたことも意義深いことでした。

人と人、人とアート、アートと街が緩やかに交差する時間を心ゆくまで楽しめた3ヶ月でした。

今年「亀山トリエンナーレ2020」が開催されます。

亀山の歴史文化や自然、建築などに触発されて

「場」を活かした新しい芸術表現が生まれることでしょう。

それぞれの立場で地域の魅力に気づき、

人や街の未来を考えるきっかけになればと願っています。